

様式 2

第 1 回安曇野市放課後子どもプラン運営委員会 会議概要

- | | | |
|---|-----------|---|
| 1 | 審議会名 | 平成19年度第1回安曇野市放課後子どもプラン運営委員会 |
| 2 | 日 時 | 平成19年4月19日 午後7時から午後9時まで |
| 3 | 会 場 | 明科総合支所2回大会議室 |
| 4 | 出席者 | 宮下委員、三好委員、浅野委員、伊皆委員(代理)、原田委員、矢口委員、横内委員(代理)、具原委員、小笠原委員、三澤委員、中田委員、川口委員、浅川委員、腰原委員、松枝委員 |
| 5 | 市側出席者 | 保崎豊科教育課長、洪田見子ども支援係長、丸山豊科生涯学習係長、細萱生豊科生涯学習企画員、堀主査 |
| 6 | 公開 | |
| 7 | 傍聴人 | 0人 記者 0人 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 平成19年4月23日 |

協 議 事 項 等

1、会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 委嘱書の交付
- (4) 委員紹介
- (5) 安曇野市放課後プラン運営委員会要綱について
- (6) 会長選出
- (7) 議事
 - ① 放課後子どもプランの概要について
 - ② 放課後子どもプラン(教室)の具体的な内容について
 - ③ そのほか

審議

【事務局より放課後子どもプランの概要説明】

- ・ PTAのみならず、学校の校長先生の方々がいらっしゃるので、質問からお願いします。
- ・ 実際何人ぐらい参加しているのか。また、参加する学年の割合を教えてください。
- ・ 明科地域についてはこれから募集するので今年はわからないが、豊科の場合は多いところで80~100人、少ないところで40人ぐらいです。学年については、全般的に高学年はほとんど参加していないので、低学年が主流です。
- ・ 検討していただきたいことを提案します。豊科地域では保護者の迎えを必須にしている。明科地域では夏場は5時、冬場は4時に帰参加児童だけで帰る方針だということですが、最悪の場合を考えたいわけです。この文科省、厚生省の方針では放課後の子どもの安全な居場所の確保、とあるわけです。学校は安全で、また、家庭も安全。したがって、この学校から家庭へ帰るこの間の子どもたちの安全が問題。今の不審者がでている状況、青パトの巡回している状況を考えると、普通に帰る子どもたちも危険、子ども教室に参加する子どもたち危険です。明科も豊科と同じように保護者が迎えにくるという方法がとれないかもう一度検討、配慮していただきたいという要望です。
- ・ まだ、開設までに時間がある。この委員会でそういう方向ができれば、そういう方向をとらざるを得ないと考えます。明科の4時5時の帰りの設定は明科の児童館「ひまわり」の自由来館のときと同じシステムで、どれくらいの子が実際にこのプランに参加するかということはこれからですが、今まで児童館「ひまわり」の経緯からこの判断をした。豊科地域でのお迎えのパターンですが、この時間にお迎えの方がおうちにいらっしゃるような家庭でないと、この事業に参加できない。なるべくなら、そういった制限にとらわれず、参加してほしい子どもたちに参加してほしい。教育委員会として勇気をもって、やはり取り組むべき部分かなと思います。ただし、この運営委員会の中でやはり危険だと判断されれば、豊科方式の形になるのかなと思います。
- ・ 確かに児童クラブは3年生までしか参加できない。その反面、安全という面も大切です。
- ・ 学校安全会の対象にはなってくるのか
- ・ すべての参加者は、スポーツ安全保険に加入します。学校保険の対象ではないです。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に企画財政部まちづくり推進課へ提出してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

- ・ 子どもたちが遊びの中で縦のつながりができる。そして、テレビゲーム、漫画ぬきに、「遊びこむ」ということができる。
- ・ (国の説明の中に) 総がかりという言葉がありました。総がかりであるならば、パトロールなど学校と自宅の間の安全確保をやるようなことが必要かと。もともと教育とは総がかりである。また、部署ごとの連携を持つとあったが、部署があって行政がやるわけではなく、必要があってたまたま部署にわかれているだけで、文科省の言い方は、これは逆である。子どもを育てるのは当然、社会総がかりである。総がかりでやらないと、またゆとり教育と同じ過ちになると思う。この部分をしっかりと時間をかけて考えて、視野を広げて実施した方がよい。そうすると、校長先生の心配なんかも少しは減るかと思います。母親が毎日子どもをお迎えにくるのではなく、基本的に自分で考え自分で身を守り家に帰る技術を自分で学んでいく。これが基本だと思います。
- ・ 総がかりは社会全体で取り組むという意味ですが、昔の子育てはそういうことだったですね。となりのおじいちゃん、おばあちゃんに相当しられたりしましたから。
- ・ 高学年の子どもがあまり参加しないということですが、縦のつながりを重視すると、高学年の子どもに参加を呼びかけ、一緒に帰っていくということも地域でできるのでは。そんななかかわりを大事にしていくのもよいのでは。育成会でも普段異年齢の子と接していないですから、まとまりがなく、バラバラになってしまう場が見受けられます。
- ・ 放課後児童クラブもあるわけですね。どうしてもおそくなる子どもは放課後児童クラブには登録するという選択肢もあるわけですね。そこらへんはどういう関係になりますか？
- ・ 両事業については、家庭の事情による選択が出てくるかと思います。この放課後子ども教室と放課後児童クラブについて、これから具体的に健康福祉部とつめていかななくてはならないと思います。
- ・ 本日は健康福祉部が欠席しているのですが、安曇野市での放課後児童クラブの位置づけについて説明しますが、国の方針として当初は、放課後児童クラブ事業も学校において実施ということになっておりました。しかし、当面は現状どおりの実施方法でも問題はないという方針になってきました。安曇野市の場合では当面現状どおり、放課後児童クラブは児童館において、毎日実施し、しかも親御さんのお迎えもきちっとし、負担金もお支払いいただくという方針で実施していく方向です。
- ・ 放課後子ども教室について、毎日実施という国の方針があるわけですが、もう少し時間をとりながら、実施拡大については考えていきたい。ただ、豊科について、今まで週一回だけの実施なのですが、ずいぶん家庭での子どもたちの成果が学校でもあらわれているとお聞きしている。
- ・ 放課後児童クラブは、この放課後子ども教室事業がおこなわれることによって衰えていくということはないのでしょうか。現在3年生までしか児童クラブに参加できないのですが、むしろ、放課後児童クラブについて高学年まで対象を広げるというほうが保護者の切実な願いかなと。実際5時でお迎えができるのは限られた家庭であり、ほとんどいないので、児童クラブのようにある程度遅い時間まで子どもを預かっていただく居場所の確保のほうが保護者としてはありがたい。
- ・ 健康福祉部が欠席していますので、そういったご要望があったことはお伝えしておきます。しかし、対象を高学年まで拡大するということは、なかなか厳しいということをお聞きしています。ご要望があったということはお伝えします。
- ・ 保護者のみなさんにとっては選択肢が広がるということは良いと思います。
- ・ 安全管理者についての保険、費用はどうなっているのでしょうか。子どもたちをみて頂く大人の部分についてもしっかりしておかないといけないのではないかと。
- ・ 安全管理員は市の負担で保険に入ります。謝礼に関しては、ほとんど無償みたいなものですが、昨年まで、1回一人1,050円を豊科では支払っていましたので、この程度までは確保したいと検討しています。
- ・ およそ事業実施の概略がわかったかと思います。学校の先生がたもちらっとのぞく程度のことはしていただくというお気持ちでご理解頂ければと思います。
- ・ 事故がおこったとき、学校の責任ではないということですね事故がおこればいろいろ面倒だが、学校はまったく関係ないということですが。
- ・ 事業実施の中でまたいろいろと、校長先生の中から貴重なご意見をいただけるとおもいます。

【事務局より地域連絡会議の概要説明】

- ・ 長野市では大学生が積極的に入ってくるような取り組みがあるということですが、よその市町村ではどのような取りくみがおこなわれているかという情報の収集をお願いしたい。
- ・ 指導員、安全管理員はどのように募集したのでしょうか。
- ・ 事務局から直接地域の方々に直接お願いにあたった。いろいろな場で宣伝して募集してきました。さまざまな年齢層の方々がいらっしゃいます。
- ・ 豊科の場合では、わいわいランド3年間の活動のなかで徐々に充実してきた。コーディネーターとしてお知り合いの方を探して参加していただいております。携わっている方はほんとに一般の方、退職されたかた、人生経験をいかして子どもとふれあっていただいております。水曜日のこの時間なら都合がつくという方です。
- ・ 一番心配だったのはPTAで探さなければいけないのか思いましたので、質問させていただいた。
- ・ 地域にはいろいろな技能を持った方々がいらっしゃるので、そういった貴重な方々を是非取り込んでいく

ということが大切かと。

- 明科地域のお迎えでない点が不安であるという意見がありました。実施までに時間がまだありますので、帰りの安全確保についてももう少し事務局で調査させていただきたい。もしその上、不安だということになれば、もう一度この会議を持たせていただきたいと思います。
- 調査していただいて、安心して事業展開をしていただきたいと思います。